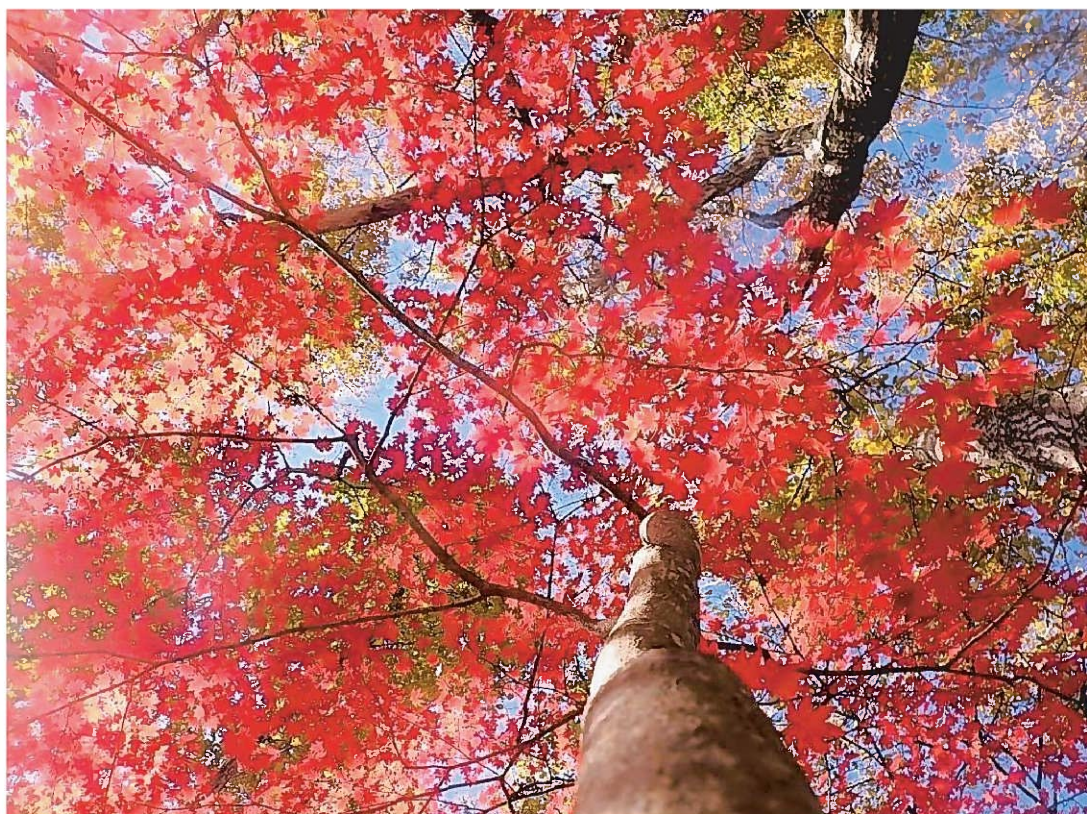


仙台市太白山自然観察の森 情報誌2025年11月号

森のおくりもの 11

NO.410 The Gift from Woods

コハウチワカエデの紅葉



観察の森では今月が紅葉の見ごろを迎えます。彩を添えるカエデ類には、ハウチワカエデやウリハダカエデ、ヤマモミジなどがあり、今月は平年より気温が高く晴れの日も多いようなので、キレイな空の青と紅葉の赤、森の錦をぜひ満喫して下さい。また、日曜日は申し込み不要・参加費無料のお得なガイドウォーク（自然観察会）を開催中です！

【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『皮相浅薄（ひそうせんぱく）』

1989年に公開された映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2』では、タイムマシンで1985年から30年後の2015年10月21日へタイムトラベルをするのですが、自動車が空中を飛んで移動する未来の姿が描かれています。先日、その設定から10年となり、未だ実現はされていませんが、AI技術の進歩は目を見張るものがあります。検索機能で知りたいことや疑問に思ったことなど大抵のことなら調べることができ、便利な世の中になったと感じます。

特に画像検索はとても重宝します。例えば花を撮影して検索すれば、当てはまる候補が出てくるので何の植物か調べることができます。しかし、似たものとの違いや判別のポイントを把握していないと、正しい答えにたどり着けません。中でもきのこは画像検索に向かない素材の一つです。独特なものは判明しやすいですが、類似種があるのと同じ種でも個体差や成長段階で印象が異なり、間違った情報もあるので特定するのが難しいです。

きのこは、日本国内に名前がわかっているもので約2,500種類、その2～3倍の未知種があるといわれています。図鑑には、多いものでも1,000種未満しか掲載されていないので、すべての種類を見比べられるわけもなく、図鑑の外見だけの写真では正しく同定できません。正確な同定は、胞子などを顕微鏡で見て調べますが、最近はDNA解析をするそうです。

「皮相浅薄」という言葉があります。「物事の見方や考え方がうわべだけで、浅く不十分なさま。学問や知識、思考の深さがなく、表面だけ見て浅い判断をすること」という意味です。簡単に答えがわかってしまうと種名だけ知って満足し、きちんと確かめずに見ただけで信じてしまいがちになります。一番困るのは、間違った種名がネットで発信されることです。あやふやな知識で種名を間違えてしまうと、その情報が蓄積されるので惑わされることになります。特に、食べる目的で情報を鵜呑みにするのは危険ということです。

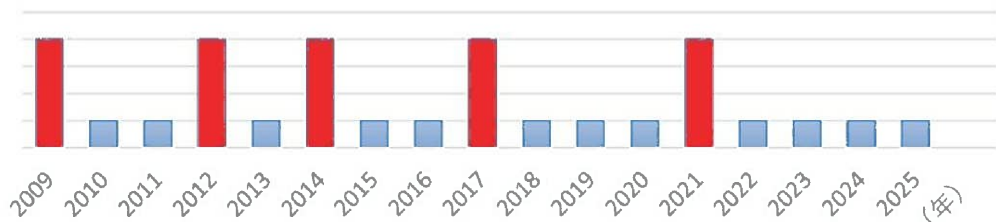
いくら便利でも観察力や自分で考える力と知識を持ち、情報を見極めて正しい判断ができるようになることが大切だと思います。【レンジャー：新田隆一】



11月の生物ごよみ

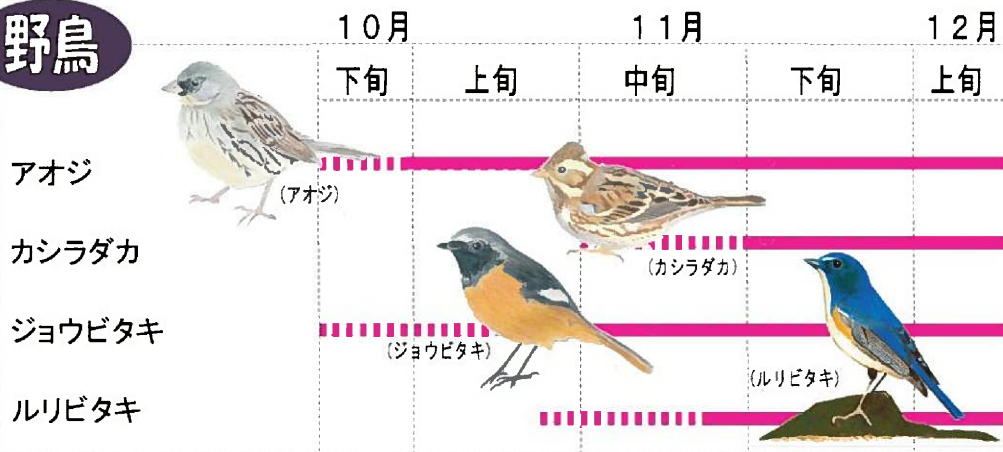
自然観察の森は、カエデやウルシが鮮やかに色づき始め、いよいよ紅葉の季節を迎えました。足元にはクリやムカゴといった秋の恵みが顔を出し、「実りの秋」の豊かな気配に満ちています。しかし、今年の森は少し様子が異なります。森の動物たちにとって最も重要な食料のひとつであるドングリが全般的に不作の傾向にあるのです。ブナ科の木々の実りは、豊作と不作を繰り返す性質がありますが、今年は多くの場所でドングリの数が極端に少なく、地面を探してもなかなか見つかりません。このドングリの不作は森の生態系に大きな影響を与えます。ドングリを主食とするリスやネズミなどの小動物はもちろん、ツキノワグマやイノシシといった大型動物も食料不足に直面します。とくにクマは冬眠前の大切な時期に十分な栄養を蓄えられず、エサを求めて人里近くまで行動範囲を広げるリスクが高まります。美しい紅葉を楽しみつつも、この実りの少ない秋が、森の動物たちにどのような試練をもたらすのか、静かに見守る必要があります。来年の豊作を願いつつ、森の生命の営みを改めて考える季節となっています。

太白山自然観察の森のドングリ豊作不作状況



【レンジャー：齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



「一瞬の黄色」



秋が深まると観察の森ではカワラヒワという小鳥が再び増えてきます。

左の写真は地面で植物の種を探している4羽の様子です。大きさはスズメくらいで地面や枯草の中にいて動かないでいると気づきにくく、体の色が保護色になっているのでしょう。



その地味な体色ですが、よく見るとなかなか魅力的です。褐色の体に黒や白がデザインされ、頭部はオリーブ色、淡いピンクの太いくちばしは植物の種を食べるのに適しています。そして遠くからでも良く目立つ体の中央の黄色い班、よくスズメと間違われる小鳥ですがこの黄色で見分けることができます。町中や公園、河原などでも出会う可能性が高い身近な野鳥です。



この黄色ですが、翼を広げると帯になって見え日に当たるととてもきれいです。その姿を撮影しようと観察の森の駐車場ですばらく粘りました。



声も特徴があってふだんはキリリコロコロと鳴き、繁殖期の雄はジュイーンとかビーンなど独特の鳴き方をします。慣れると声でカワラヒワがいることに気づけますよ。晴れた日、キリコロという声に見上げると、陽光に輝く一瞬の閃光のようなその姿が見られるかもしれません。

【レンジャー：木田秀幸】

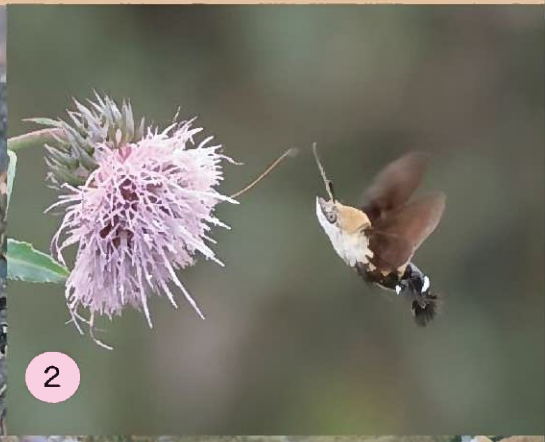
森は生きている



晩秋とは10月上旬から11月上旬頃までを指しますが、秋の終わりのイメージがあります、肌寒さを感じ始め、紅葉がひととき美しいのが特徴ですが、この時期に森で見られる生き物たちを紹介したいと思います。① 体のイボイボが特徴のカエルです、ツチガエルと言いましたが、最近名前がムカシツチガエルに変わりました。② ホバリングしながら90度に曲がる口を使って器用に花の蜜を吸うヒメクロホウジャクという蛾の仲間です。③ 建物の縁にしがみついているのは、クロアゲハの幼虫です、体を糸で固定して蛹になる準備の前の姿です。④ ハサミに藻のような毛が密生し、日本の上海ガニと呼ばれ地域によっては、食用にもなるモクズガニです。



1



2



3



4

今年は例年になく暑い日が多かったのですが、急に秋が到来したような気がします。これから森の生き物たちも少しずつ減っていき、少し寂しい気もしますが、健康診断も終わり、食べ物が美味しくなる季節でもありますので、秋の味覚でも楽しんでいきたいなと思います。

【レンジャー：菅井 潤】



イベント & お知らせ

◆『晩秋の秋保二口林道ウォーキング』

- ・ 11月22日(土) 9:30 ~ 15:00
- 【内 容】講師の解説を聞きながら二口林道歩き、晩秋の自然を楽しみます
- 【対 象】18歳以上 20名
- 【申込み】Eメールにて11月14日(金) 必着で(抽選)

◆『おはよう野鳥かんさつ』

- ・ 12月13日(土) 7:00 ~ 8:30
- 【内 容】講師の解説と案内で散策路を歩きながら野鳥を探して観察します
- 【対 象】どなたでも (中学生以下は保護者も参加)
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴で
- 【申込み】当日受付 開始時間前に余裕をもってお越しください

◆『野鳥観察とバードケーキ作り』

- ・ 12月20日(土) 10:00 ~ 11:50
- 【内 容】野鳥の観察と野鳥のえさのバードケーキ作りを楽しみます
- 【対 象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者も参加)
- 【申込み】Eメールにて12月12日(金) 必着で(抽選)

※申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp 詳細はこのQRコードを読み取り



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日！

開催日: 2日, 9日, 16日, 23日, 30日

開催時間: 10:00~11:30

※時間までにセンター前へお集まりください

申し込み不要。飲み物、かっぱ、歩きやすい服装と靴で。

11月の休館日

4日、10日、17日

25日

※月曜日が祝祭日の場合、
翌日以降の平日が休館



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

「仙台市公園緑地協会」URL: <https://sendai-green-association-jp/green/taihakusan/>

2025年 11月号

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133